



市民の大きな期待を受け、辞令を交付された桜川女性消防分団のみなさん。

- 主な活動内容**
- ・ 基本的訓練礼式の習得
 - ・ 救急救命講習への取り組み
 - ・ 消防訓練への参加
 - ・ 市消防出初式への参加
 - ・ 春季・秋季火災予防運動の実施
 - ・ その他消防防災に関する普及広報活動
 - ・ 大規模災害時の後方支援活動

市民の力で 安全・安心なまちづくり

応急手当普及員を目指して、桜川消防署員から指導を受ける団員の皆さん。



■問合先／生活安全課 (☎ 58-5111・75-3111、内線 2282)

女性消防分団が発足 ～女性だから出来ること～

桜川市消防団女性分団の発団式が、6月7日に市役所若瀬庁舎で行われ、桜川市消防団の皆川光吉団長から辞令が交付され、桜川市で初の女性消防団員が誕生しました。これから、女性ならではの視点で様々な消防活動を展開していきます。

市消防団女性分団発団式

今回、桜川市として初めての女性消防団員となった15人の方々は、市内に在住・在勤している18～50歳の方を対象とした公募によって集まりました。職業も、会社員・自営業・主婦など様々な職業の方々が構成されています。式では、団員を代表して酒寄美佳さんが「私たち女性消防分団は、女性としての持つ力を十二分に発揮し、桜川市民のみなさんが、安心して安全な生活を送ることができるよう全員一丸となって、消防団活動を推進することを誓います。」と、宣誓。中田市長、増田市議会議長からは「女性ならではの視点で、『女性だから出来ること』をモットーに、市の消防活動を展開していただきたい。」と激励されました。

今なぜ女性消防団が必要か？

現在の社会は、性別に捉われない能力を發揮していく「男女共同参画社会」へと変化しています。これまで男性中心だった消防団においても、女性ならではの配慮や優しさを活かした消防活動が求められています。

これからの活動

女性分団は、原則火災などの災害活動には従事せず、市民の皆さんが安全に、そして安心して暮らせるまちづくりを目指します。



真剣な表情で、自動体外式除細動器 (AED) 操作、心肺蘇生法などを習得しています。

自主防災組織を結成しよう！

～地域の安全をみんなの力で守る～

なぜ自主防災組織が必要なのか？

大規模災害が発生した場合、公的機関による救援・救助活動が開始されます。しかし、すべての被災地域で早急に対応することは困難です。例えば、阪神大震災や新潟中越地震の時のように、道路や電気・水道などのライフラインが寸断された場合や、同時に多数の火災やケガ人が発生した場合、通常と同じような消防活動や救助活動を行うことは出来ません。

家屋内で生き埋めになった人の救助データによると、約80%の人は自力で這い出たか、家族や隣人によって救助されたものです。公的機関による救助は約20%という調査報告があります。大災害が発生した時の初期救助活動の大きな力となるものは、地域住民の助け合いの精神による自主防災活動です。

実際に何をやるの？

いざ災害が発生した場合に、迅速かつ安全に対応するには、日頃からの訓練が必要不可欠です。地区の集会などで防災について話し合ったり、消火器・救出機材・備蓄品などの防災資機材を購入し、実際に防災訓練を行うことで地域一体となった組織を運営していきます。

平時時の主な活動

- ・ 防災訓練の実施
- ・ 防災知識の啓発
- ・ 災害危険個所の巡回・点検
- ・ 資機材の購入・点検

災害時の主な活動

- ・ 初期消火活動
- ・ 負傷者の救助・救護
- ・ 避難の誘導
- ・ 情報の収集



昨年度結成された加茂部第2区の訓練の様子。桜川消防署員から消火器の使用方法についての講習を受けました。